

## 「合唱」

(第二十回)

空のかなたから、ひらりとドイッ人が舞い降りてきた。着地したのは、徳島城博物館の庭園。

先日、ここでエンゲル記

念市民コンサートが開

かれた。笛や三味線の

「阿波踊り」から、次

第にベートーベンの

第九交響曲「合唱」

へと続く。演奏は

富岡西と阿南高

専ブラスバンドだ。

音楽に加えて演劇

のストーリーも興

味深い。特に印象的

だったのが、指揮棒

が若い音楽家に託さ

れる場面。脚本や演出、

監督、演奏、合唱など、

みんなの力を合わせた秀

作だった。

パウル・エンゲル氏は、かつて板

東俘虜収容所で活躍したバイオ

リニスト。楽団を誕生させ、音楽

の素晴らしさを人々に広めたの

だ。その功績が徳島に、そして

全国へと受け継がれている。

さて、12月にはあちらこちらで

「合唱」が演奏されている。本邦

で初演されたのは1968年で、場

所は板東俘虜収容所。その後、

日本では暮れの「第九」現象

が見られるようになった。

その理由として「第九

忠臣蔵説」がある。本

来は、越年資金を願

う楽員たちのための

演奏会だった。これ

に最後の交響曲と

いう特別な意義を

感じる日本人の心

情が重なり、いつも

満員となる。「合

唱」の終楽章には、

来世への道のりが示

唆されているという。

読者の皆さんはどのよ

うな想いで聴いているだ

ろうか？

今、徳島の芸術文化はダイナ

ミックに展開しつつあるようだ。

エンゲル氏が徳島公園から天国に

帰る際に言った。「心の音楽を次

の世代に伝えていきましょう」と。

(徳島大学附属病院内科医師)

健康のススメ

板東 浩